

第62回全国聾学校陸上競技大会

山本蒼 100m で全国制覇

滋賀県立聾話学校
高等部二ユース



4×100mRに出場した高田文 奥口 山本 阪口 男子100mで優勝し、表彰台に上がる山本

第62回全国聾学校陸上競技大会が9月27日・28日の2日間、山梨県のJITリサイクリウムにて開催され、全国から精鋭たちが集い熱戦を繰り広げた。本大会に出場した滋賀県立聾話学校の選手たちは、各種目で健闘を見せ、男子学校対抗で見事5位入賞という好成績を収めた。

山本100mで悲願の頂点へ。リレーでも全国5位入賞の健闘

中でもひととき大きな輝きを放ったのが、山本蒼選手の100mでの快挙だ。予選では余力を残し組1着で決勝へ進出。決勝では、緊張が張り詰める中、ピストルの音とともに飛び出した山本は、力強い加速でライバルを引き離し、そのままトップでゴール。記録は1秒67。全国の頂点に立った。観客席からは大きな拍手が送られ、ライバルも健闘を称えた。さらに200mでも4位に食い込む活躍を見せ、短距離界での存在感を改めて示した。

滋賀県立聾話学校の活躍はこれだけではない。男子4×100mリレーでは、48秒92でチームベストを更新し、全国5位入賞という成果を手にした。また、初出場の阪口選手は男子砲丸投げで7m92を投げ、4位入賞。大舞台での堂々たる投擲は、チームに新しい風を吹き込んだ。一方、同じく初出場の高田文選手は、最後まで粘りのある走りを見せた。1年生だけに来年以降の飛躍が楽しみだ。今大会がラストランとなった奥口大翔選手は、緊張のなか100mとリレーに出場。持てる力を出し切り、堂々とした走りの後輩たちに勇姿を見せた。

選手たちの全力のパフォーマンスと仲間への声援が重なり、多くの感動が生まれた2日間。全国の大舞台で戦った経験は、今後の競技人生、そして人生そのものにおいて大きな糧となるだろう。また、10月25日から開催される第24回全国障害者スポーツ大会にも本校からは山本と孫が陸上競技滋賀代表で出場し、期待がかかる。